

## I 東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の場の力の最大化

### 1 現状認識

#### (1) 東西軸、南北軸の「交流拠点」

- ・古代東海道遺跡(古からの東西の交流軸)
- ・活発な東西交流(新東名、東名、JR東海道本線等)
- ・中部横断自動車道をにらんだ山梨、日本海に至る新たな交流の結節点

#### (2) 東静岡から日本平、さらには三保松原に広がる「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリア

- ・静岡県立大学や静岡大学など数多くの高等教育機関の集積
- ・グランシップ、県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術公園、草薙総合運動場、地球環境史ミュージアム、久能山東照宮等の文化・芸術、スポーツ施設集積
- ・世界遺産富士山のビューポイント、歴史、自然環境、レクリエーションなど、様々な資源を抱える日本平
- ・適切な保全管理に向けて様々な取組が展開される世界遺産構成資産の三保松原
- ・日本平に集積する様々な施設の連携した取組(ムセイオン静岡、有度山フレンドシップ協定等)
- ・三保地区における海をフィールドとした盛んな教育・研究活動の展開
- ・課題となる東静岡、日本平、三保松原相互間の公共交通によるネットワーク

#### (3) 静岡市のまちづくりの動き

- ・(仮称)東名静岡東スマートインターチェンジ供用(平成29年度)
- ・大谷小鹿地区におけるまちづくり計画の検討
- ・清水港ウォーターフロント活性化推進事業
- ・草薙駅周辺整備事業
- ・三保松原ビジターセンター建設事業

本地域の魅力を磨き高め、“ふじのくに”を代表する  
県都静岡にふさわしい新しい拠点づくりが必要

## 2 地域づくりのあり方

### (1) 「場の力」を高める「面」としての地域づくり

#### ●「点」から「線」・「面」への地域づくり

- ・「点」である個々の施設を「線」でつなぎ、さらに「面」とすることで、高まる「場の力」  
(東静岡、日本平、久能山東照宮、三保、清水港ウォーターフロント等の周遊性を持ったつながり)
- ・施設間の連携強化(ムセイオン静岡、有度山フレンドシップ協定等による連携強化、個々の施設が持つ魅力の磨き上げ)
- ・回遊性のある水と緑のネットワーク形成
- ・地域に根差したエリア(面)の名称による「場の力」の発信
- ・大きな可能性を持つ「場の力」となる協働による取組の積み重ね
- ・「線」となるルートの魅力向上(彫刻の設置、街路樹、花による沿道の装飾等)

#### ●「点」と「点」を「面」に高める公共交通機関 ～キーワードとなる「脱車(だつくるま)」～

- ・様々な公共交通の組合せ(LRT、辻馬車、バス、ロープウェイ、海上交通等)
- ・文化芸術の拠点に触れながら、食も楽しみ富士山も見られる仕掛け
- ・東静岡を拠点に、観光客も住民も自由に回遊できる公共交通
- ・東静岡から日本平・三保松原への魅力的なバスの定期的な運行(地域内をつなぐ循環バス等)
- ・ロープウェイを活用した日本平周辺の交通の円滑化

### (2) 地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化

#### ●交通の利便性を活かした地域づくり

- ・交通利便性が高い本地域の優位性を地域づくりに積極的に活用  
(仮称)東名静岡東スマートインターチェンジ供用、中部横断自動車道供用、リニア新幹線供用後の新幹線サービス向上等)
- ・県内だけでなく県外から人を呼び込む観点

#### ●地域の独自性の打ち出し・アイデンティティの確立

- ・静岡らしさ、個性・特徴ある発想、地域資源の掘り起こし
- ・「文化力」という明確な特色の打ち出し
- ・恵みの豊かさ(食文化の豊かさ、農業、漁業)を文化の一つとして捉える観点
- ・歴史・文化等のストーリー構築による魅力向上(文化財を活用した地域活性化のストーリーづくり等)
- ・日本平山頂・夢殿の整備による本地域の魅力の最大化
- ・子供が楽しめる・学べる環境(三保地区の環境学習の拠点化)
- ・学生や留学生などの若者が集い・賑わい・学び・地域とともに活動する環境

### (3) 県都静岡の新拠点にふさわしい地域づくり

#### ●東静岡と静岡がともに活気が出る地域づくり

- ・東静岡と静岡とがともに発展する地域づくり(東静岡と静岡の連携と適切な役割分担)
- ・静岡市第3次総合計画を踏まえた、県・市が連携した地域づくり

#### ●駅近くに残った貴重な未開発の土地であるという視点

- ・有効に人を集める視点

## II 東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくりのあり方（事務局素案）

### 1 「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出す機能

#### (1) 学術、文化・芸術、スポーツ集積エリアへの玄関口

- ・日本平、三保松原につながる玄関口として、本地域に広がる資源の情報を発信する場
- ・学術、文化・芸術、スポーツ施設が集積する日本平や三保松原へのアクセス拠点

#### (2) 文化とスポーツに触れ・楽しみ・親しむ場

- ・“ふじのくに”の本物の文化、国際レベルのスポーツ大会やプロスポーツの試合等に触れ、楽しみ、親しむことができる場
- ・本物の文化・スポーツを通じ、将来を担う人材の豊かな感性や創造性を高める場

#### (3) 文化・スポーツを通じて多彩なふれあいを生み出す場

- ・文化系・スポーツ系イベント等を通じ、若者をはじめあらゆる人々が感動し、賑わう場
- ・鑑賞・観劇・観戦及び創作を通じ、若者をはじめあらゆる人々が出会い、交流を深める場

### 2 統一感あるまちづくりのあり方

#### (1) 富士山の眺望への配慮

- ①富士山の眺望を確保する建築物の形態等
- ②富士山の眺望場所の整備
- ③富士山眺望の「借景」としての活用

#### (2) 美しい景観のまちづくり

- ①新幹線からの視線を意識した景観形成（新幹線への視覚的メッセージ、夢殿ホールは軽やかで半透明なデザイン）
- ②駅南北をつなぐ景観軸の形成
- ③うるおいある景観の形成
- ④賑わいと風格を生む夜間景観の演出

#### (3) 「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい統一感あるデザインの形成

- ①「文化とスポーツの殿堂」のデザイン、景観を一体的にコーディネート
- ②背景となる丘陵の緑に映える建築形態
- ③新都市にふさわしい光、水、緑溢れるオープンスペース
- ④親近感のあるデザイン

## III 「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等（事務局素案）

### 1 「文化力の拠点」のコンセプト

#### 「創造・発信」

- ・魅力ある文化の創造
- ・国内外への文化の発信
- ・地域の伝統・生活文化の継承

#### 「学ぶ（人づくり）」

- ・文化を担う人材の育成
- ・“ふじのくに”ならではの学びの提供

#### 「出会い・交わる」

- ・地域外交による国際化の推進
- ・多彩な文化活動と交流の拡大
- ・文化、芸術の香り高く、若者が集う魅力ある空間

### 2 「文化力の拠点」に導入すべき機能

#### (1) 導入機能検討にあたっての視点

- ・文化力を通じて県内だけでなく、移住も含めて県外からも人を呼び込む視点
- ・大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある発想
- ・あらゆる人に向けて本県の「文化力」の高さを発信する視点
- ・駅近くの利便性の高い土地であるという視点

#### (2) 「文化力の拠点」に導入すべき機能

##### <創造・発信>

- ①静岡の「場の力」を活かし、個性ある文化を創造し、育み、発信する拠点機能（お茶、和の食、花、伝統食や伝統技能、特色ある景観、コンテンツ等）
- ②恵み（食文化の豊かさ、農業、漁業）の豊かさ、自然や植物を実感できる機能（お茶、和の食、富士山等）

##### <学び（人づくり）>

- ③学生をはじめとした若者が集い、地域に根差して活動し、静岡ならではの学びができる機能（大学コンソーシアム、危機管理等）
- ④生涯を通して、文化に触れ、学び、楽しみ、自らを高める機能（美術館、図書館、世代を超えて人々が集う施設）
- ⑤歴史の観点から静岡を学べる機能（古代東海道の活用等）

##### <出会い・交わる>

- ⑥日本平、三保松原に広がる地域の玄関口にふさわしい交流の核となる機能（文化・芸術の香る空間、レストラン、宿泊施設、展望ルーム、夢殿ホール等）
- ⑦海外との多彩な出会い・交流を生み出す機能（留学生支援、多文化交流、学生と地域社会との連携、学生をはじめとした若者が集い賑わう空間）
- ⑧母親や若者に明るい展望を持たせられる機能（母親同士、若者同士が出会い語らう機能）